

住宅産業フォーラム21 活動のあゆみ

第1年度（平成8年4月～平成9年3月）

（1）フォーラム [開催回数：4回]

第1回： 「阪神・淡路大震災復興について」

建設省近畿地方建設局 震災復興対策本部 副本部長 座間 愛知 氏

「これからの住宅産業・課題と期待」

京都大学 工学部 建築学科 助教授 古阪 秀三 氏

第2回： 「震災後の住宅の復興状況と今後の取り組み」

兵庫県都市住宅部 部長 柴田 高博 氏

「震災復興と住まい・まちづくり」

神戸大学 工学部 建設学科 教授 安田 丑作 氏

第3回： 「神戸東部新都心開発の方向について」

(株)安井建築設計事務所 大阪事務所 都市開発部長 柏原 孝治 氏

「阪神大震災から見たガス供給と今後の課題」

大阪ガス(株) 設備技術部 設備チーム 副課長 長谷 幸宣 氏

「阪神大震災によるプレハブ住宅の被害状況について」

大和ハウス工業(株) 技術本部 次長 大内 照明 氏

第4回： 「震災と都市耐震診断について」

京都大学 防災研究所 助教授 鈴木 祥之 氏

「兵庫県南部地震による住宅建材被害実態調査報告」

(株)クボタ教育センター 代表取締役 長尾 正三 氏

「阪神・淡路大震災被災「既存不適格住宅」再建の取組 ～主として建築行政の観点から～」

神戸市住宅局 建築部 指導課長 鈴木 三郎 氏

（2）シンポジウム [開催回数：1回]

第1回：平成9年3月24日 開催

テーマ：「震災に住宅関連産業はどのように対応したのか？ ～直後の対応の実態とその教訓～」

第1部 「対応と教訓」に関する報告

第2部 パネルディスカッション

（3）視察研修会 [開催回数：1回]

第1回：大阪ドーム及び大阪ガス実験集合住宅NEXT21

第2年度（平成9年4月～平成10年3月）

（1）フォーラム〔開催回数：3回〕

第1回：「住宅産業の今後の課題」

建設省 住宅局住宅生産課 木造住宅振興室長 杉山 義孝 氏

第2回：「今後の住宅建材産業関連施策について」

通産省 生活産業局住宅産業窯業建材課 企画班長 片岡 進 氏

第3回：「規制緩和による21世紀住宅産業」

郵政省 大臣官房施設部建築企画課 建築審査官 斉藤 隆司 氏

研究会A，Bの報告並びに北欧住宅事情調査報告

（2）研究会〔開催回数：13回（研究会A9回、研究会B5回、うち共同研究会1回）〕

共同研究会A・B： 本年度の趣旨・計画の説明

調査研究会の話題の提供とその検討

調査研究会A

調査研究会B

第1回：調査研究会テーマの検討

第2回：テーマ「居住関連サービス業者に聞く」

第3回：テーマ「高齢者・障害者の住ニーズ ～脊損の一般的理解と住宅改善～」

第4回：テーマ「住宅設備メーカーに聞く」

第5回：テーマ「都市型集合住宅のニーズ」

（3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：OAPレジデンスタワー

第2回：大阪府営 河内長野野木戸住宅

（4）海外事情調査〔開催回数：1回〕

「北欧住宅産業事情調査団」派遣

期 間：平成9年9月11日～9月20日

訪問国：フィランド、スウェーデン、デンマーク

第3年度（平成10年4月～平成11年3月）

（1）フォーラム [開催回数：3回]

- 第1回：テーマ「住宅性能表示を中心とした問題」
- 第2回：テーマ「新しい住宅供給システムについて」
- 第3回：テーマ「21世紀の都市居住像」

（2）シンポジウム [開催回数：6回]

- 第1回：テーマ「住宅情報からみた居住者ニーズ」
- 第2回：テーマ「住宅とPL法」
- 第3回：テーマ「リフォームの現状」
- 第4回：テーマ「日本の住宅生産システムと輸入住宅」
- 第5回：テーマ「健康住宅とは、住めば健康になる住宅？それとも病気になりにくい住宅？」
- 第6回：テーマ「萱島・新町家プロジェクトノ-K（萱島）方式の可能性を探る
～定期借地権・コーポラティブ・タウンハウス～」

（3）視察研修会 [開催回数：3回]

- 第1回：神戸市東部新都心
- 第2回：クリエイティブTOWN岡山（CTO）
（株）遠藤剛生建築設計事務所 遠藤 剛生 氏
- 第3回：萱島・新町家プロジェクト
（株）ヘキサ 取締役 安原 秀 氏
大阪府住宅供給公社 熊谷 邦夫 氏

第4年度（平成11年4月～平成12年3月）

（1）フォーラム [開催回数：3回]

- 第1回：テーマ「少子化・高齢化社会を考慮した建築生産システム - 介護保険時代の住宅政策 - 」
- 第2回：テーマ「住宅の性能表示と品質確保 ～消費者の視点から見た現在の住宅～」
- 第3回：テーマ「住宅生産と情報化 ～情報化の将来～」

（2）シンポジウム [開催回数：5回]

- 第1回：テーマ「介護保険時代の住宅産業 ～介護保険制度は住宅をどう変えるのか？～」
- 第2回：テーマ「介護保険時代の住宅産業 ～在宅福祉における住宅改造と介護現場の現状～」
- 第3回：テーマ「住宅の性能表示と品質確保 ～住宅性能表示制度の動き～」
- 第4回：テーマ「住宅の性能表示と品質確保 ～住宅生産者と消費者の視点から～」
- 第5回：テーマ「住宅生産と情報化 ～情報化の現状～」(第3回視察・研修会と同日開催)

（3）視察研修会 [開催回数：3回]

- 第1回：次世代住宅「ふれっくすコート吉田」
- 第2回：「ソワール新檜尾台」
- 第3回：「大阪市立 住まい情報センター」(第5回シンポジウムと同日開催)

第5年度（平成12年4月～平成13年3月）

（1）フォーラム〔開催回数：3回〕

- 第1回：テーマ「集合住宅団地の大規模リフォーム」
- 第2回：テーマ「これからの住宅産業と情報化」
- 第3回：テーマ「21世紀の住宅産業を展望する」

（2）シンポジウム〔開催回数：4回〕

- 第1回：テーマ「集合住宅団地の大規模リフォーム」
- 第2回：テーマ「ストック活用とリフォーム産業」
- 第3回：テーマ「住宅ならびに住設機器の情報化」
- 第4回：テーマ「住宅生産システムの情報化」

（3）視察研修会〔開催回数：2回〕

- 第1回：同潤会江戸川アパート・代官山再開発地区・同潤会青山アパート
- 第2回：奈良市奈良町・橿原市今井町（奈良市都市計画部・橿原市今井町町並保存整備事務所）

第6年度（平成13年4月～平成14年3月）

（1）フォーラム〔開催回数：4回〕

- 第1回：テーマ「ライフスタイルとしての市街地居住」
- 第2回：テーマ「ライフスタイル戦略から見た（設計）計画課題」
- 第3回：テーマ「転換期の自治体行政と住宅政策 住宅マスタープランを中心として」
- 第4回：テーマ「公団・公庫の役割見直し問題と自治体住宅政策」

（2）シンポジウム〔開催回数：3回〕

- 第1回：テーマ「都市居住の新潮流」
- 第2回：テーマ「関西大都市の都市再生と住まい・まちづくり」
- 第3回：テーマ「居住地の魅力」

（3）研究会〔開催回数：5回〕

- 第1回：研究会のあり方等に関する議論
- 第2回：「集合住宅の魅力探し（集まって住むこと）」に関する議論
- 第3回：「ローレルスクエア登美ヶ丘の概要～これからの集合住宅開発の視点～」
- 第4回：「コーポラティブハウスのABC」
- 第5回：「ユーコートの概要」

（4）視察研修会〔開催回数：2回〕

- 第1回：「ガーデンハイツ加美」
- 第2回：「大和ハウス工業(株) 総合技術研究所」

第7年度（平成14年4月～平成15年3月）

（1）フォーラム [開催回数：2回]

- 第1回：テーマ「住宅構法とモジュールの規格統一は何故できないのか～現状問題を探る～」
- 第2回：テーマ「次世代のエネルギーシステム」

（2）シンポジウム [開催回数：4回]

- 第1回：テーマ「新築住宅着工70万戸時代の読み方」
- 第2回：テーマ「少子高齢時代の家族と住まい - 新たな分析視角の提起 - 」
- 第3回：テーマ「次世代の省エネルギー住宅」
- 第4回：テーマ「地球環境時代へ向けた住宅産業の新展開」

（3）視察研修会 [開催回数：3回]

- 第1回：「紀泉ふれあい自然塾」(大阪府泉南)
- 第2回：「スカイオアシス(屋上緑化)」(大阪市)、「くずはタワーシティー」(大阪府枚方市)
- 第3回：「高齢化社会での住宅」エルホーム芦屋(兵庫県芦屋市浜町12-3)

（4）研究会 [開催回数：5回]

- 第1回：「グランドメゾン晴明丘/グランドメゾン天王寺小橋町」
- 第2回：「『ラグザ大阪レジデンス』の開発と分譲について」
- 第3回：「六甲アイランドCITY『イーストコート11番街』～メディケアサービスマンション」
- 第4回：「集まって住むこと」の魅力と課題について分析・討議
- 第5回：「アーバネックス三条」

第8年度（平成15年4月～平成16年3月）

（1）フォーラム [開催回数：4回]

- 第1回：テーマ「関西圏の住宅マーケットを読む」
- 第2回：テーマ「地球環境時代と住まい手の意識変化」
- 第3回：テーマ「～住宅産業の新潮流～建築家システムと住宅産業」
- 第4回：テーマ「省エネルギーへの社会の取り組みと住宅機器開発の方向性」
- 第5回：テーマ「～住宅産業の新潮流～ストック市場への挑戦」

（2）視察研修会 [開催回数：2回]

- 第1回：「アーベインなんば(大阪市浪速区)」「アーベイン中之島西(大阪市福島区)」
- 第2回：「住まいのデパート『ペンタくん』多摩センター店」(東京都多摩市)
「マークスプリングス」(神奈川県横浜市)

（3）研究会 [開催回数：5回]

- 第1回：平成15年度活動内容についての議論
- 第2回：「NEXT21」見学
- 第3回：取材調査メンバー及びスケジュール等の議論
- 第4回：来年度活動についての議論
- 第5回：年間活動報告についての議論

第9年度（平成16年4月～平成17年3月）

平成16年度は、前年度のテーマの一つである「住宅産業再生への道」に引き続いて取り上げ、今後の住宅産業の行方を探る取り組みを行った。

フォーラム、シンポジウム、視察研修会、研究会の他に、行政等の住宅関連制度の調査を行い、各活動から得られた情報・知見を踏まえ、企画幹事会の場で住宅産業の重要課題を検討した。抽出された重要課題については、フォーラム、シンポジウム、視察研修会などの各活動にフィードバックし、さらに議論や検討を深めた。

（1）フォーラム〔開催回数：4回〕

第1回：「住まいと防犯とセキュリティシステム」

第2回：「他産業からみた住宅産業の姿」

第3回：「宅建業・工務店の新しい潮流」

第4回：「都心賃貸住宅の新しい形とマンスリーマンション」

（2）シンポジウム〔開催回数：1回〕

テーマ「震害を受けない住宅をめざして」

（3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：「都市基盤整備公団総合研究所技術センター施設」、「アクティ汐留」

「東雲キャナルコートCODAN」

第2回：「国立国際美術館」、「関西電力株式会社大阪中之島本社ビル」

（4）研究会〔開催回数：5回〕

平成16年度は参加企業の若手社員に研究委員として参加して頂き、「住まいづくりの新しい動きと、団塊ジュニア世代の住宅志向」をテーマに、各種調査研究活動を実施した。また、住宅に関わる多様な問題点・課題について、研究会メンバーでディスカッションを行い、討議を通じて、メンバーの問題意識の明確化と共有、メンバー間のコミュニケーションが促進された。

第10年度（平成17年4月～平成18年3月）

住宅産業フォーラム21創立10年の節目を迎えた平成17年度は、これまでの軌跡を振り返り、総括するとともに、今後の住宅産業の行方を探る取り組みを行った。

住宅産業界では、社会的な経済状況の変化や少子高齢化やライフスタイルの多様化による顧客ニーズの変化、エネルギー環境の変化などの技術面での変化により様々な対応に迫られている。住宅着工件数の低下が進む中で、新たな住宅市場を見据えた住宅産業の発展の方向性を見出す必要がある。

近年の技術の進展に伴い、住生活の考え方にも変化が見受けられるが、その代表的な課題が地球環境問題であると思われる。「地球環境と住生活エネルギー再考」を掲げ、21世紀に於ける、ストック時代の住宅像を論議した。

フォーラム、シンポジウム、視察研修会、研究会の他に、行政等の住宅関連制度の調査を行い、各活動から得られた情報・知見を踏まえ、企画幹事会の場で住宅産業の重要課題を検討した。抽出された重要課題については、フォーラム、シンポジウム、視察研修会などの各活動にフィードバックし、さらに議論や検討を深めた。

（1）フォーラム [開催回数：4回]

第1回：「地球環境時代における住生活エネルギーと住まい方の再考」

第2回：「ライフスタイルの多様化と住宅産業」

第3回：「行政から見た住宅産業の課題と展望～景観とまちづくり～」

第4回：「住宅産業の新潮流～さきがけを、住まいづくりの原点から再考する～」

（2）シンポジウム [開催回数：2回]

第1回：「日本の住宅産業はどのように発展してきたか」

第2回：「これからの10年の住宅産業を展望する」

（3）視察研修会 [開催回数：2回]

第1回：「トヨタアトリスパーク」、「トヨタ未来住宅」、「トヨタテクノミュージアム産業技術記念館」
「愛知万博（長久手会場・瀬戸会場）」

第2回：「東洋陶器株式会社（北九州工場）」、「積水ハウス北九州街づくり」

（4）研究会 [開催回数：4回]

・（株）デザインクラブアレンジスタジオの見学および同社代表取締役小川千賀子氏へのヒアリング

・積層の家 建築家 大谷氏自邸（神戸市 元町）の見学

・「LOHAS 団塊世代 団塊ジュニアとLOHASは関係があるか？」の聴講

第11年度（平成18年4月～平成19年3月）

平成18年度は、これまでの運営形態を踏まえ、フォーラム形式にて、現在生じている諸問題について、識者や関係者等の参加による、活発な討論の場を提供した。

（1）フォーラム [開催回数：3回]

第1回：「住生活基本法と住宅産業」

第2回：「省エネルギー住宅・次世代エネルギー最前線」

第3回：「超高層住宅に代表される都市居住の地域コミュニティ」

（2）シンポジウム [開催回数：2回]

第1回：「住宅産業フォーラム21 10周年シンポジウム in Tokyo」

テーマ：「これからの10年 住宅産業を展望する」

第2回：テーマ「循環型社会を実現する技術と社会システム」

（3）視察研修会 [開催回数：2回]

第1回：パソナ02、東京ミッドタウン、六本木ヒルズ、三鷹マンション、天命転地住宅、サンシティ横浜

第2回：ピオール大阪大手前タワー、グランドメゾン大手前タワー

（4）研究会 [開催回数：2回]

第1回 討議：今年度の活動方針

第2回 講演：「東京あるきテクトについて」 東京あるきテクト 代表 齊藤 理氏

（5）企画幹事会 [開催回数：7回]

- ・住宅産業フォーラム21の方向性や活動内容の企画立案・検討
- ・年度テーマに即した課題の抽出

第12年度（平成19年4月～平成20年3月）

2005年11月に端を発した耐震構造偽装事件は、生活者を不安の坩堝に落とし入れるとともに、建築・住宅産業界の仕組みと建築士の信頼を喪失させた事件であった。

これを受けて当フォーラムでは、平成19年度の年間テーマを「住まいの安全・安心」とし、いかにすれば生活者が安全・安心な住宅を手に入れられるか、また建築・住宅産業界は信頼回復に向けてどう取り組んでいくべきかということについて、幅広く議論した。

また、住まいや暮らしの中で、『健康問題』『エネルギー問題』も大きなテーマと考え、積極的に取り組んだほか、暮らし方や住まい方等の住教育の重要性にも注目し、事例研究を行った。

（1）フォーラム〔開催回数：3回〕

第1回：「これからの建築確認検査制度と住まいの安全・安心を考える」

第2回：「住宅産業における地球温暖化対策」

第3回：「住宅産業と住教育 生涯学習としての住まい学習」

（2）シンポジウム〔開催回数：2回〕

第1回：「安全安心な住宅を手に入れる」

（社）日本建築材料協会が開催する「けんざい2007」において開催した。

第2回：「地震を知って震災に備える」

（3）視察研修会〔開催回数：2回〕

第1回：京都 まちなかこだわり住宅のモデルハウス視察

第2回：ハウススクエア横浜 大和ハウス展示場

（4）研究会〔開催回数：3回〕

第1回：大阪での地域資源を見直す

第2回：大阪での地域資源を見直す（岸和田地区）

第3回：19年度総括と20年度の方向性検討

（5）企画幹事会〔開催回数：8回〕

・住宅産業フォーラム21の方向性や活動内容の企画立案

・年度テーマに即した課題の抽出

第13年度（平成20年4月～平成21年3月）

平成20年度はテーマを『住宅産業の新潮流』とし、住宅産業の原点に帰った上で、あらためて新しい住宅産業の萌芽を探していった。一つには萌芽しつつある住宅産業の新しいビジネスモデルにスポットを当て、また、社会システムの変革として、建築の制度の改革が、どのような思いで、どのように変わっていくのかを見ていった。

（1）フォーラム〔開催回数：4回〕

- 第1回：「住宅産業の新しい潮流 - 住宅産業の原点と萌芽」
- 第2回：「改正建築士法と建築士に期待される役割」
- 第3回：「住宅産業の新しい潮流 住まい手にどう応えるか」
- 第4回：「住宅産業と住教育 - 住宅産業が果たす役割 - 」

（2）シンポジウム〔開催回数：1回〕

テーマ「住宅・建築生産の歴史に学ぶ持続可能性」

長期優良住宅（200年住宅）普及促進法が施行され、持続可能な住まいづくりに対する関心が高まり、ストック重視の価値観が広がっているが、これらの動向は必ずしも新しいものとはいえない。そもそも、伝統木造建築技術は、循環型生産システムに支えられた持続可能性を備えていた。また、フロー重視からストック重視への移行は、日本の歴史の中で実は過去にも起こった事柄であった。持続可能な住まいづくりを進める上で、住宅・建築生産の歴史に学ぶべきものは少なくない。このシンポジウムでは、中井家大工支配の変遷を中心に、住宅・建築生産の歴史を学び、今後の持続可能な住まいづくりのあり方を考えてみた。

（3）視察研修会〔開催回数：3回〕

- 第1回：軽井沢地区 視察および事例研究
 - ・朝吹山荘（ヴォーリス設計 移築）夏の家（レーモンド設計 移築）
 - ・脇田邸、森の中の小さな別荘（吉村順三設計）星野リゾートの環境事例研究
 - ・軽井沢での別荘建築の事例研究ほか
- 第2回：東リ株式会社 本社工場と研修センター
- 第3回：キッザニア甲子園

（4）研究会〔開催回数：1回〕

- 第1回：箕面市桜ヶ丘 大正住宅博覧会地区

（5）企画幹事会〔開催回数：6回〕

- ・住宅産業フォーラム21の方向性や活動内容の企画立案
- ・年度テーマに即した課題の抽出

第14年度（平成21年4月～平成22年3月）

年間テーマ：『長期優良住宅 生き残る住宅産業』

平成21年度は年間テーマを「長期優良住宅 生き残る住宅産業」とし、今までの歴史を振り返り、見えてくる先人の知恵を現代に活かしていくとともに、新しい住宅産業のあるべき姿を追求していった。具体的な活動としてはフォーラム・シンポジウム、視察研修会、研究会、企画幹事会を開催した。

（1）フォーラム [開催回数：4回]

第1回フォーラムでは、テーマを「『特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保に関する法律』を消費者（生活）保護の仕組みとして成熟させるために！」とし、世界の住宅保証制度に学び、今回の法制度の再認識を図り、保険制度で賄う消費者（生活者）保護の仕組みのこれからを見据え、住宅供給者の立場から制度の円滑運営に向けた課題を議論した。

第2回～第4回フォーラムは、テーマを「長期優良住宅先導的の事業から見える住宅産業が果たす役割」とし、実際に長期優良住宅先導的モデル事業として採択された事業を紹介して頂いた。加えて、有識者より今後の住宅産業界についての予測や、今後のあり方などについても講演して頂いた。

（2）シンポジウム [開催回数：1回]

テーマ：「プレハブ企業型生産と地域型生産の融合システムはありうるか」

国土交通省の伊藤氏より、近年の住宅・建築の現状や、建築関連法規・制度の動きを踏まえた住宅の長寿命化、リフォーム・既存ストックの活用、省エネルギー・省CO₂対策等の重要課題について、関連施策の内容、現状への対応、目指すべきところなどが網羅的に紹介・解説された。

また、当フォーラムの異座長から、住宅産業のあるべき姿や進むべき方向について、スクラップアンドビルドからサステナブルへの再編の中で、不動産概念の転換による住宅産業構造の再編成の可能性が示唆された。さらに、21世紀型ハウジングモデルの創出や開発途上国へのハウジング技術の輸出その他、新しい住宅産業の振興策が提言された。

最後に、住宅産業再編研究会からは、住宅産業の再編を視野に入れた、様々な担い手同士の組み合わせとその有効性、実現可能性などが示唆された。建築士が中心となって取り組むエリア・アーキテクト構想、生活者が関与する仕組みや万能インフィル産業の創出等、新たな展開にむけてユニークな提案がなされ、多くの関心を集めた。

（3）視察研修会 [開催回数：2回]

伊佐家屋敷や一休寺等、江戸時代の優れた建築物を視察した。また、岡山県へ赴いた際は、地元の建築士の方より中庄団地や倉敷駅周辺の建築作品をご紹介頂き、その後は情報交流会を実施するなど、貴重な情報を得ることが出来た。

（4）研究会 [開催回数：5回]

研究会では「インフィル供給モデル」について検討を行った。また、検討を行うために、様々な方面の有識者から講演を賜ったほか、住まいのミュージアムや国立民族学博物館等を見学した。結果、非常に幅広い知識や考え方を知ることが出来た。

（5）企画幹事会 [開催回数：6回]

住宅産業フォーラム21全体の方向性についてメンバー間で議論・検討を行うとともに、フォーラムや視察研修会等、個々の催しについても立案から実施まで検討を行った。

第15年度（平成22年4月～平成23年3月）

年間テーマ：『低炭素社会を見据えた長期優良住宅とビジネスモデルのこれから』

低炭素社会構築への道筋づくりや、住宅産業再編に関する提言研究等について活動を進めていき、一定の知見を得ることが出来た。具体的には、フォーラム・シンポジウム、視察研修会、若手研究会、企画幹事会を開催した。

（1）フォーラム [開催回数：4回]

第1回：「トップランナー方式で展開されている省エネ政策と省エネ対策新技術を考える」

第2回：「自然生態系に学ぶ住宅設備技術・地産地消の環境エネルギービジネスを考える」

第3回：「持続可能な未来に向けて住環境リテラシーのあり方考える」

第4回：「生活者の視点からの物づくり（住まいづくり）がもたらす世界を考える」

（2）シンポジウム [開催回数：1回]

テーマ：「低炭素社会に向けて住宅・建築とエネルギーのあり方考える」

本年度のシンポジウムは、住宅・建築の省エネルギー化について造形の深い、東京大学の坂本雄三教授を基調講演に招聘し、後半は法人会員企業により、低炭素社会を見据えた「人と住宅・建築物と住まいエネルギーの最新課題と今後の方向性」について、議論を行った。

（3）視察研修会 [開催回数：2回]

第1回：「TOTO・DAIKEN・YKK AP コラボレーションショールーム」

第2回：「独立行政法人都市再生機構 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験」

（4）若手研究会 [開催回数：1回]

インフィルモデルの研究として、昭和時代に建てられた木造長屋を耐震改修した事例を視察した。また、昭和時代の建築物が多く立ち並ぶ昭和町界隈を併せて視察した。

第1回：「昭和町界隈および耐震シェルター『j・Pod工法』の視察」

（5）企画幹事会 [開催回数：8回]

住宅産業フォーラム21全体の方向性についてメンバー間で議論・検討を行うとともに、フォーラムや視察研修会等、個々の催しについても企画・立案から内容の審議まで行った。

第16年度（平成23年4月～平成24年3月）

年間テーマ：『成熟社会の住宅産業維新』

平成23年度は、住宅産業について産業維新とも呼べる構造改革への道筋を探った。その中で、住宅産業の過去・現在・未来を問い直し、30年後の住まいづくりの構想を議論した。また、住宅産業フォーラム21のこれからの展開を議論するにあたり、会員企業各社の経営計画の調査を行った。その中で明らかになったことの一つは、各企業が多角的に事業を展開していることであり、しかもその多角化は高度成長時代の業容拡大のためだけでなく、生き残りをかけてのそれであること、そして新築からリフォームへのシフトや生活者の住まい方の変化などに代表される住宅市場の変化への対応であることが判明した。

（1）フォーラム [開催回数：4回]

第1回：「30年後の住まいづくり社会を構想するプロジェクト活動報告」

第2回：「住宅産業の過去・現在・未来を問い直す - 企業の枠組みを超えて - 」

第3回：「住宅産業は東日本大震災にどう対応したか、さらにどうすべきか - 阪神・淡路大震災との違いを明らかにして、そして東海・東南海・南海自地震に備える - 」

第4回：「住宅産業フォーラム21のこれからの展開」

（2）シンポジウム [開催回数：1回]

テーマ：「成熟社会と住宅」

年間テーマ「成熟社会の住宅産業維新」の締めくくりとして本シンポジウムでは、日本社会が高齢化により変化を遂げていくことが予想されるなかで、新たに登場したサービス付き高齢者向け住宅の事例や高齢者住宅の現状を紹介いただき、パネルディスカッションでは今後の住環境のあり方や住宅産業の高齢化への対応を探った。

（3）視察研修会 [開催回数：2回]

第1回：「リビオ姫路大津 ブルームガーデンのぞみ野」

第2回：「大阪府摂津市南千里丘地区」

（4）若手研究会 [開催回数：1回]

第1回：「大阪ガス実験集合住宅『NEXT21』視察」

第2回：「コトバノイエ視察」

第3回：「TELEVISION HOUSE 佐竹台の家視察」

（5）幹事会 [開催回数：6回]

住宅産業フォーラム21全体の方向性についてメンバー間で議論・検討を行うとともに、企画WGでの企画案件の審議を行った。

（6）企画WG [開催回数：6回]

年度テーマに即した企画・立案を行った。